

小学校第2学年 道徳科学習指導案

児童数 19名

指導者 大西 達也

1 主題名

おかあさん、ありがとう【感謝】小学校 低B（8）

2 ねらいと教材

（1）ねらい

子ぎつねが、おいしいぶどうがなっているのがお母さんのおかげだと知ることを通して、自分を支えてくれている人の存在や思いに気付き、日頃世話になっている人々に感謝する心情を育てる。

（2）教材名

「きつねとぶどう」（学研教育みらい「新・みんなのどうとく」2年）

3 主題設定の理由

（1）ねらいや指導内容についての教師の捉え方

本指導内容は、自分の日々の生活は多くの人々の支えがあることを考え、広く人々に尊敬と感謝の念をもつことに関するものである。

この段階では、世話をしてくれる人々の思いに気付き、感謝する気持ちを言葉や行動に表すことができるようにすることが求められる。家族など日頃世話になっている人々に感謝する気持ちを持ち、感謝の気持ちを言葉や行動にできることが重要である。

感謝の気持ちは、人が自分のためにしてくれていること事柄に気付くこと、どのような思いでしてくれているのかを知ることで芽生え、育まれるものである。身近な人々から見えないところで日々の生活を支えてくれる人々まで、成長と共に、尊敬と感謝の念が広がっていくようにしたい。

（2）児童のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

本学級の児童は、素直で穏やかな児童が多く、友達とも仲良く過ごすことができている。学校生活の中でも、友達に文房具を貸してもらったり、優しく言葉をかけてもらった時には「ありがとう」を伝えることもできている。しかし、日頃から世話になっている家族に対しては、その好意や善意をごく当たり前のようにとらえているように感じる。そこで、この学習を通して、家族を含め周囲の人々がどんな気持ちで自分たちの世話をしてくれているのか、また、親の深い愛情に気付くことで、改めて、感謝や尊敬の念について考えられるようになってほしいと考える。

（3）使用する教材の特質や取り上げた意図及び具体的な活用方法

本教材は、子ぎつねが、おいしいぶどうがなっているのがお母さんのおかげだと知ることを通して、ねらいに迫るものである。母親の優しさと大きな愛情に気付き、それに対して深い感謝の念を抱いた子ぎつねの気持ちに迫ることで、児童に日頃自分を支えてくれている人々への尊敬と感謝の気持ちについて考えさせることができる。

中心発問では、子ぎつねが母ぎつねに伝えたい思いについて考える。この際、吹き出しを使って、子ぎつねの気持ちに迫り、感謝する気持ちを具体的な言葉に表せるようにする。終末では、教師が入院した際に、身近な人たちに支えられ感謝の念を感じた体験談を伝える。説話を通して、日頃お世話になっている人の善意に気付くことや感謝の気持ちを言葉や行動にすることの大切さに気付かせたい。

4 学習指導過程

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	1 お世話になっている身近な人々について話し合う。	○あなたがお世話になっている人には、どんな人がいますか。 ・お母さん ・家族	・自分たちの生活が多くの人々の支えによって成り立っていることに意識を向けさせる。
展開	2 教材を読んで考え、話し合う。	○犬の声が出たとき、親ぎつねはどんな思いで大声でさげんだのでしょうか。 ・子ぎつねを守らないと。 ・子どもがうたれてしまう。 ・猟師に捕まってしまうと子ぎつねがつれていかれるから。 ・自分が見つかっても子どもを助ける。	・猟師や猟犬が来ると親ぎつねと子ぎつねたちは危険であることをおさえる。 ・「親ぎつねは怖くなかったのか。」「大声を出すことで猟師や犬はどうなるのか。」などの補助発問により、多様な考えを出させる。
	3 感謝の気持ちについて考える。	○昔の巣の近くにぶどうが実っている訳が分かったとき、子ぎつねはどんな気持ちだったでしょう。 ・お母さんのおかげでぶどうが実っているんだ、ありがとう。 ・ぼくのためにぶどうを取りに行ってくれてたんだ。 ・お母さんがぼくのことを守ってくれたんだ。 ◎子ぎつねが「お母さん、お母さんー」と言った後、何て伝えたかったと思いますか。 ・お母さん、僕のことを守ってくれてたんだね。 ・僕は元気に過ごしているよ。 ・お母さんに会いたい。 ・また、一緒に過ごしたいな。 ・立派に成長したよ。	・親ぎつねが子ぎつねのためにぶどうを取ってきたことに気付かせ、親ぎつねの深い愛情に対する子ぎつねの思いに迫る。 ・子ぎつねが一人で成長したわけではないことを押さえる。 ・感謝する気持ちを具体的な言葉で表せるようにするために子ぎつねの気持ちを吹き出しに書かせる。 ・その後、全体で共有し、ねらいとする道徳的価値への理解を深める。
終末	4 教師の説話を聞く。	○だれにどんなありがとうを伝えたいですか。 ・おかあさん、ご飯を作ってくれてありがとう。	・学習を通して、自分が考えたことを全体へ発表し、交流する。 ・教師が入院したことからお世話になった人への感謝の気持ちを抱いたことについて話をする。

【評価】

- ・自分を支えてくれている人の存在や思いに気づき、自分が感じた感謝の気持ちについて改めて考えている。(発言・記述)